

広畑病院跡に90床の計画 地域住民ら「不十分だ」

で声
明会の
説明懸念

30.3.19
神

姫路市内の2病院を統合して建設する新県立病院計画で、県や市は18日、同市広畑区にある製鉄記念広畑病院が統合・移転した後の地域医療の体制について、説明会を市広畑市民センターで開いた。

広畑病院と県立姫路循環器病センターが統合する「はりま姫路総合医療センター（仮称）」は2022年、JR姫路駅東側に開院を予定する。一方で、広畑病院の移転後について、地域住民は医療体制の縮小を懸念。それを受けて県は、ツカザキ病院を運営する社会医療法人「三采会」と交渉し、新たな医療機関を設けることで合意した。



住民からの質問を受ける県や市の担当者、病院関係者ら（奥）＝姫路市広畑市民センター

新たな医療機関は、現広畑病院新館に90床を備え、総合診療科や消化器内科など7科を設置。救急医療では、内科で重症者を受け入れるなどの役割を担う。

説明会では出席した市民らから「病床が（現広畑病院の392床から）90床へと大幅に減る。同規模の病院を誘致できないのか」「医師の数は十分なのか」と指摘。外科などの主要診療科がなくなることへの不満も訴えた。

県の担当者は「10人の常勤医師を確保し、外科救急など対応できない分野は増床したツカザキ病院や新病院と連携していきたい」とのことと伝え、理解を求めた。

（井沢泰斗）

診療科大幅減 不満の声も

30.3.19
朝日

広畑病院統合 県など住民説明会

製鉄記念広畑病院（姫路市広畑区夢前町3丁目）と県立姫路循環器病センター（同市西庄甲）が統合され、2022年にJR姫路駅東側に新県立病院が開設される計画をめぐり、県や同市などが18日、住民説明

会を開いた。同市広畑区正門通1丁目の広畑市民センターであった説明会には、約400人が参加した。

県は、閉院後の広畑病院の土地、建物を譲り受ける社会医療法人三采会の新病院が、23年春以降に七つの診療科、病床数90床で開院するなど説明。住民からは、現在28の診療科がある広畑病院と比べて大幅な減少だとして「診療科を増やせないのか」など意見や不満が出た。古川直行・県病院事業副管理者は「（新県立病院の整備により）診療機能は充実する」と述べた。

（高橋孝二）